

## 令和5年 姉妹都市ホブソンズベイ市訪問

令和5年10月  
安城市長 三星元人

### はじめに

令和5年度、安城市とホブソンズベイ市が姉妹都市提携してから35周年を迎えました。これを記念し、両市は相互に訪問することとし、先ず本年4月にはホブソンズベイ市訪問団が安城市にやってきました。その際、アントワネット（トニー）ブリファ市長から、姉妹都市親善友好関係再確認のため、改めて協定書を作成しようとの申し出があり、安城市が訪問した際に署名することとなりました。

今回の派遣団は、杉山朗市議会議員、萩須篤国際交流協会副会長はじめ、産業後継者、公募市民の皆さん等、総勢9名です。令和5年10月10日から17日まで8日間の行程で友好を深めてきました。



### ホブソンズベイ市

#### 1 姉妹都市提携の経緯

オーストラリア・ホブソンズベイ市（旧アルトナ市）には、トヨタ、デンソー等の企業が進出していたほか、安城東高校がペイズレー校（現ベイサイドP - 12カレッジ）と姉妹校提携し、交流が続いていました。

このような状況から、昭和56年に先方より姉妹都市提携の申し入れがあり、協議期間を経て昭和63年、姉妹都市提携の調印を行いました。そして、今日まで35年間友好関係が続いています。

#### 2 親善友好の証

10月12日、私たちはホブソンズベイ市庁舎を訪れ、市長、議長として協定書に署名し、改めて両市の友好関係を確認しました。会場ロビーには過去に本市から贈った美術品の数々が常設展示されており、今回の調印式を見守っているかのようでした。

市庁舎玄関前には、姉妹都市提携記念樹として昭和63



ブリファ市長と筆者



市庁舎玄関前の桜

年に植えられた八重桜が枝振り良く満開となっており、大切に管理されていることがうかがえます。市内の植物園にも平成6年に植えられた枝垂れ桜がありましたし、図書館の中庭に安城市の市章の形に剪定された植栽があるのを見たときは、本当に驚きました。ホブソンズベイ市が安城市との姉妹都市関係を大切にしていることが、心に沁みました。翻って私たちはどうか、と反省しきりです。

私たち派遣団は、まる2日にわたってホブソンズベイ市内各所を案内していただきましたが、先方の友好協会役員、ホストファミリー達がみな、バスに同乗し、2日間お付き合いしてくださいました。その後、一人ずつバラバラになって各ホストファミリーと過ごしたわけですが、皆本当に親切にしてくださいました。歓迎レセプションでも、心の籠ったおもてなしを受けました。なお、レセプションには、在メルボルン日本国総領事島田順二様ご夫妻も臨席されました。

私たち派遣団は、まる2日にわたってホブソンズ



レセプションにて

### 3 council は市議会にあらず？

ホブソンズベイ市の市長は、7人の市議会議員の中から選出され、1年で交代します。また、市長とは別にCEO（最高経営責任者）が在任しています。



council

ところで、市の建物には、「council」と表記されています。一般的に和訳すると「地方議会」ですが、どうも様子が違います。議場も拝見しましたが、議員席は議場の正面、日本では市長はじめ執行部側が位置するところに並んでいます。そして同じく日本では議員席が並ぶところに市民が座る傍聴席があります。つまり、議

員と傍聴者が向き合う形となります。聞くところによると、市民は議会中に発言ができるということです。

市長が議員から選出される点も、議場のつくり、議会で市民が発言できる点も、さきに訪問したアメリカ・ハンチントンビーチ市と同じでした。詳しく調べたわけではありませんが、おそらく市議会は議決機関かつ、行政の執行機関という位置付けなのでしょう。そのため、市営、市立という意味で council が使われてい

るものと思われます。

#### 4 市庁舎 ～羨望のオフィス空間～

ホブソンスベイ市庁舎の職員の執務スペースを見学させていただきました。とてもゆとりのある室内で、席同士の間隔も広々としています。いわゆるフリーアドレスで、職員は自由に席を使えます。机上には書類はなく、ペーパーレスが進んでいるようです。打合せコーナーも豊富ですし、1人用の閉鎖的なブースもありました。また、席数の割に職員の数がかなり少ないのも気になりました。

何より職員たちにせかせかと仕事をしている様子はいかがえず、数人が集まってリラックスした雰囲気は何やら協議している光景が目につきました。日本の現状と単純比較はできないでしょうが、これで効率性の高い業務が実現できているのだとすれば、何とも羨ましい限りです。



#### 5 充実した公共施設



市内の小学校を訪問しました。特徴的だったのは、1年生に進級する前に学校に慣れさせるため、年長児のクラスがあったことです。もう一つ、高学年の音楽の授業では、ロックのビデオ映像を鑑賞していました。音楽室にはエレキギターやドラムが並んでいます。教室に対して児童数は少なく、ゆとりがありました。

分館的位置づけと思われる、小ぶりの図書館には、音声や映像を撮ったり編集したりできるスタジオが置かれていました。また、プログラミングを学べる部屋があり、3Dプリンターや電子ミシン、子供が遊びながらプログラミングを体験できるデジタル教材が揃っていました。

ほかにも、見て触れて楽しく科学を学べる展示とプラネタリウムがあるビクトリア州立科学館、美術作品を展示、即売できるアート&コミュニティセンターなど、興味深い施設がありました。



## メルボルン市

### 1 まちなみ

メルボルン市中心部は、南半球で最も高いユーレカタワーをはじめとする高層ビルと、1880年万博会場となったロイヤルエキシビジョンビルや、ビクトリア州立図書館など、クラシックな建物が混在しながらも調和のとれた、美しいまちなみを形成しています。広い道路が基盤の目状に配置され、周囲には広大な緑地が広がっています。



ロイヤルエキシビジョンビル



ビクトリア州立図書館



コンベンション&エキシビジョンセンター



新旧混在するビル群と公園の風景

### 2 交通事情



市街地には、トラム（路面電車）が縦横に走り、鉄道、地下鉄も走っています。特にトラムは、中心市街地区間が無料となっており、ひっきりなしに運航していることと相まって、大変多くの人々が乗車していました。

また、街のいたるところに電動アシストレンタサイクルとレンタル電動キックボードが配置され、やはり多くの人々が利用していました。片側2車線以上の道路は、1車線が自転車レーンに置き換えられ、自転車の利用が進んでいるようです。

このように、市街地においては、自動車に頼らない生活が実現していました。

もう一つ目についたのは、ラウンドアバウト（環状交差点）です。少し郊外に出ると、交差点にはほとんど信号機がなく、ラウンドアバウトが採用されていました。ラウンドアバウトには、信号機設置費用が不要になる、重大事故が減少する、信号待ちのストレスが回避できる、などの効果があります。



### 3 スポーツ環境

中心市街地から至近距離に、1956年メルボルンオリンピック会場だったエリアが広がっており、テニス、サッカー、オーストラリアンフットボール、クリケット等の競技場がひしめき合って立地しています。鉄道駅も直結しており、アクセスは極めて良好です。これらの競技場は、トップアスリート専用ではなく、一般市民も利用できるそうです。

有名な全豪オープンテニスもここで開催されますが、大会期間中、周辺は有料入場エリアになります。ただし、その入場料は低く設定されており、高価なアリーナ入場チケットが買えない人でも、大会の雰囲気を大いに味わい、盛り上がる事ができる仕掛けとなっているため、非常に多くの人々が訪れるとのことでした。アリーナ建設が予定されている安城市においても、ぜひ参考にすべきだと思います。

また、少し離れた公園の周回道路では、F1グランプリも開催されます。

さらに毎年11月の第1火曜日には、競馬のメルボルンカップが開催されますが、なんと、その日は競馬のためにビクトリア州の休日になっています。メルボルンカップ・デーは地元だけでなく、オーストラリア全体が盛り上がるようです。

身近なところでは、ホブソンズベイ市内で



全豪オープンテニス・センターコート



AAMI パーク・サッカースタジア



メルボルン・クリケット・グラウンド



もメルボルン市内でも、ジョギングに汗を流す人を多く見かけました。

このように、オーストラリアでは、スポーツが生活に浸透し、スポーツをとことん楽しむ文化が根付いているようです。

## おわりに

広大なオーストラリア大陸のごく一部だけを訪れたわけですが、それでもオーストラリアの雄大さを感じることができました。我が国とは比べものにならないほど、ゆとりのある空間の広がり、ゆとりのある時間の流れがそこにはありました。



多民族が暮らす国の成り立ちゆえか、人々との触れ合いの中で、友好的で包容力の大きい国民性をうかがうこともできました。また、先住民族に対する過去の悲しい歴史に対し、真摯に向き合う姿勢は随所に見られました。

オーストラリアでも物価は高騰していますが、最低賃金がビクトリア州では時給2,300円と聞くに及び、市民生活への影響は日本とはやや事情が異なるものと思慮します。実際、レストランなどは、平日の夜でもどこも満席に近く、活況を呈していました。

このようなことから、私の眼には、オーストラリアの人々がメンタル的に伸び伸びと余裕をもって生活を楽しんでいるかのように映りました。

このたびのオーストラリア訪問では、姉妹都市ホブソンズベイ市との35年間にわたる親善友好の重みを実感し、絆の強さを再確認することができました。ひとつ気になったのは、相手方友好協会、ホストファミリーの方々の高齢化が進んでいることです。交換学生交流が縁で歓迎会に参加していた若い人もいたので、当方も含め、後継者が育ってくれることを期待したいと思います。両市のさらなる交流の深化を図ることを心に誓い、レポートを終わります。

